

「実験室に現れた女神」 ver.3

登場人物 シテ, アド(女神)

場面 1

人物	セリフ	演技
シテ	このあたりの者でござる。本日は、X線のエネルギーCTの測定に参った。 実験室に着いた。 これがX線管、これが検出器。その中間にファントムを置くのでござる。 ファントムは、つー、つー、と動き、端まで来れば、始めに戻り、10度回転して、またつー、つー、と動くのでござる。	舞台中央で
シテ	X線のエネルギー情報を利用して、ビームハードニングフリーのCT画像を撮るのみならず、(小さい声で、***)を使って、被曝量を低減するのぢや。これで、次の応物論文賞は、みどもの物ぢや。あーはっは、あーはっは。	***の所は、いかにも企業秘密。大げさに笑う。
女神	(シテ1が笑っているときに、しずしずと)	右手まで
シテ	やや、なんとしたこと。	驚く
女神	わらわは、女神である。その方は、勤勉者ぢやによって、願いを聞いて使わす。何なりと申すがよい。	
シテ	(ガラスバッジを付けているかどうか、女神をつらつらと観察する)	
女神	わらわに見とれているのか？何なりと申すがよい。	ちょっと恥ずかしげ。
シテ	恐れながら、女神殿。このあたりは管理区域によって、千代田テクノロジーが作り申したこのガラスバッジ線量計を着用頂きたく、お願い申し上げます。	手渡す。
女神	・・・線量計を付けたぞ。願いはかなえた。 それでは、参る。(斜め左奥へ、しずしずと移動)	線量計を付けて
シテ	女神には何をねだろうとしよう。新しい測定を初めてより、あまり良いデータが取れていない。これはアンプが悪いのか、X線管が不安定なのか、皆目、見当がつかない。やはりX線管の方が高価であるによって、新しいX線管をねだるのが、良からう。 (女神が移動し始めてから) や、これはしくじった。新しいX線管をこれから願うところを。ついつい、RI主任を長く務めておるものじやから。これ、女神、やるまいぞ、やるまいぞ。	両手を前に出して、追いかける。

場面 2

シテ	このあたりの者でござる。本日は、みどもが作り申した InSb 検出器を使って、ガンマ線の測定に参った。 実験室に着いた。	
シテ	これが液体ヘリウムのデュワー、これがクライオスタットでござる。さてさて、液体ヘリウムをクライオスタットに入れるのぢゃ。さあ、さあ。	
シテ	表面積を小さくした InSb 検出器で、ガンマ線の光電ピークを測定すれば、次の原子力学会論文賞は、みどもの物ぢゃ。 あーはっは。あーはっは。 そうぢゃ、クライオスタットが冷えるまでに半時かかるによって、この間にゾーンメルト法で育成している InSb 結晶の様子を見てくるとしよう。	
女神	(シテが笑っているときに、しずしずと)	右手まで
シテ	やや、なんとしたこと。	驚く
女神	(独り言)先ほどは、なんとも、良いことを行ったような気がしない。・・・さよう、尋ね方を変えれば良いのぢゃ。 これ、そなたは何をしているのぢゃ。	納得の様子
シテ	・・・結晶を育成しております。	
女神	その結晶は、金の結晶か、銀の結晶か、それとも銅の結晶か？	
シテ	さにはあらず、これは InSb の結晶でございます。InSb は、原子番号が 49, 51 と大きく、密度も高いので、光電効果が・・・(延々と説明を続ける勢い)	
女神	(理解不能になり、耳を覆う)もう良い、分かり申した。	
シテ	・・・女神、文系の方か？	
女神	(質問には答えず)そなたは、正直者ぢゃ。よって、結晶を金にしてつかわす。それでは、これで参らん。	左後方へしずしずと
シテ	(女神を目で追い、はっと気づいて結晶を見やる) やや、これは何としたこと。最前まで銀色をしていた InSb が金色に輝いておる。・・・(少しの間、喜ぶが、はっと気づく) いやいや、これでは秋の学会で発表がままならぬ。 やい、女神、やるまいぞ、女神、やるまいぞ。	手を振り上げて、追いかける。